



ニッタオンライン  
市政報告79

動く、創る、変える

# 政策提案と実現に走り続けて30年

横浜市会議員  
(南区)

仁田またる

## 小兒医療費助成と中学校給食に全力

横浜市会議員としての活動が今年で30年を迎えました。「動く、創る、変える」をモットーに政策提案と実現のため走り続け、現在8期目に入っています。主に取り組んできた防災減災対策と子育て支援策について振り返ります。

市民の命と財産を守るために防災減災対策では、崩れ警戒区域改善対策事業の創設や雨水幹線などの浸水対策、防災・減災推進研修の実施、学校体育館へのエアコン設置と災害時のWIFI整備などを推進。

安心した子育て環境を  
環境に向けては、障害児者歯科診療の環境整備や放課後キッズクラブモodel事業、子育て家庭応援事業（ハマハグ）の実施、子育て世代包括支援センターの設置と母子保健コーディネーターの配置、地下鉄の中学生郊外

る小児医療費助成の対象年齢が中学3年生まで拡充されています。この制度の導入には、公明党横浜市会議員団（以下、公明市議団）の粘り強い取り組みがありました。発端は1992年。公明市議団が3歳未満児の医療費無償化を横浜市で実施すべきと主張したことが始まりでした。

たデリバリー型給食がつづけられました。026年度から始まります。公明市議団は25年ぶりに、上から貢食問題に取り組んできました。当時は、家庭弁当しか選択肢がありませんでした。しかし、様々な家庭環境の中でも、弁当参が困難なケーブルもあります。中学生の成長を守るために、パンや牛乳の自動販売機の設置

活動支援運賃制度の創設など多岐にわたり取り組んでまいりました。そのほかにも、高齢者・障がい者宅からの家庭ごみの「ふれあい収集」の実現、濱ともカーボード、帯状疱疹ワクチンの

市会での小児医療費無償化の提案は初のことです、議会質問にとどまらず、市長と喧々諤々の議論や担当局との厳しい折衝の積み重ねがあり、対象年齢の段階的な拡充を実現してまいりました。

から「ママ弁」の全校ランチスタートまで一步一歩進めてまいりました。この2年間は市民の皆さんのがんばりがあつての活動です。今後も市民の声に寄り添う政策提案と実現に力を尽くしてまいります。

定期接種化など市民生活活動も行い、数々の実績を残してきました。安心を推進するための